

新春初歩き 今年は趣向を変えて歴史散歩

「歴史は高知の売り」各所に多くの史跡



竹本源治「戦死せる教え見よ」の碑にて

高退協新入の坂本靖と申します。この度恒例の初歩きの講師を仰せつかり、1月6日(土)、20人近くの皆さまにご同道願い、案内をさせて頂いたいただきました。

私は40代半ばで学校現場を離れた身ゆえ、この日を迎えるまでは少し緊張感がありました。ただ当日集合してみると、参加者の多くがかつての勤務校などで、気が付けば大きな顔で先導していたような気がします。

この日は事務局から依頼された3時間の範囲内で、4キロメートル



高知城ホールに集合して出発

ほどのコースを設定し、小高坂方面に向け高知城ホールを出発しました。小津町の寺田寅彦邸を皮切りに、旧塩見文庫を右に見て植木枝盛邸跡、そして城西公園対岸の植村浩一閣島パルチザンの歌「碑」、竹本源治「逝いて還らぬ教え見よ」の碑などを巡ります。このあたりが刑務所跡地であることとを、現職の先生方は知りませんが、高退協の皆さまはご存じです。

一旦江ノ口川を南に渡り、第四小学校前の婦人参政権発祥の地碑など3碑と佐田神社(えびす様)を見た後、北岸に戻り西町界隈の幕末の志士(池内蔵太、弘瀬健太、廣井磐之助など)ゆかりの地を巡り、上町5丁目の旧閣



まず小津町の寺田寅彦邸を見学

市北詰に至ります。この西方には幕末に上士と下士が門前で刃傷事件(井口事件)を起こした永福寺や、植木生誕地、植村や廣井の墓があります。

旧閣市を南に向かい、日本丁筋の電車通りを横断し、思案橋で迷うことなく旧水通町を東進。秋葉神社の小祠や近藤長次郎邸跡を横目に坂本龍馬生誕地の南を抜け、昔の外堀にあたる溝を渡って郭中に入ります。ただ残念ながら柳原橋たもとの飛行家フランクチャムピオンの碑と日本最古の沈下橋の看板の所でタイムアップとなりました。結局、お城周辺の史跡を巡ることはできず、誠に申し訳ない限りでした。改めて機会



婦人参政権発祥之地碑など3碑

があれば、このあたりから案内させて頂いたかもしれません。

かつて「歴史は高知の売りである」と言った人がいました。事実、高知の日本史教科書で高知県関係事項を拾ってみると、その数は歴史上常に政治、経済、文化の中心であった関東や関西の都府県以外ではトップクラスです。特に高知市には、幕末維新时期や自由民権期のものを中心に多くの史跡があり、各所に人物や出来事にまつわる石碑や案内板が設けられています。

高知市中心部は平坦で、徒歩や自転車での街巡りには最適です。藩政期、幕末、十五年戦争期など、時代を区切って巡るもよし、野



中兼山、坂本龍馬、中江兆民、浜口雄幸など著名人の足跡を辿るもまたよし、寺社巡りもしかりです。

そのほか、幡多の中心四万十市中村、藩政期に家老の土居があった佐川町や宿毛市、安芸市などにも近代日本の礎を築いた人物に関する史跡が数多くあります。いずれの街もそれらはコンパクトにまとまって所在し、歩いて巡るには好都合です。

高退協先輩、同輩の皆さま、これを機会に地図やガイドブックを持って高知の街歩きを始めてみませんか。私もお供させて頂いたさせていただきます。(高知県文化生活スポーツ部歴史文化財課県史編纂室専門員・坂本靖)